

わがまちトークに係る作業部会（常任委員長との協議）確認事項

《テーマ選定の考え方について》

1 議会の提言として完結できるよう各委員会で意見の取りまとめに努力する（わがまちトークのアウトプットは「市への提言」）。

→ 前回の提言よりも掘り下げて、取組の必要性、有効性、費用対効果なども議会（委員会）で十分に検討した上で、実現性の高い、説得力のある提言を目指す。

2 各常任委員会での結論は1つないし2つ程度にまとめる。

→ より具体的に掘り下げて検討することとなるため、検討期間等を考慮すれば、内容は絞らざるを得ないと考えられる。

3 各常任委員会での結論は単年度で完結し、次年度への申し送りはなるべく控える。

→ 継続して取り組むべき課題もあると思うが、必要な取組をまとめるところまでは単年度で完結し、結論を先送りして翌年もそれを中心にせざるを得ないようなことや、活動を義務付けてしまうようなことは避ける。

4 以上のことを踏まえ、テーマ選定については、課題を絞って設問するよう心掛ける。

→ アウトプットを意識した上で、聞きたい市民の声を想定するならば、広く課題や意見をもらうというよりも、課題の解決に向けた検討材料となるような意見を出してもらうことが望ましいと考えられることから、そうした観点でテーマを選定する。

5 意見を集約していく過程で生じる少数意見については、各議員の活動において参考とする。

→ すべての意見が提言に反映できるわけではないので、反映できなかった意見は、各議員が質問や質疑に生かしていく（すべて大切な市民の声なので「聞いただけ」にしない）。

具体的なイメージと例

共通認識を得るための参考事項として、「テーマ選定の考え方」に関する具体的なイメージと例を以下に示す。

【市への提言の内容（イメージ）】 ※フォーマットとして示すものではない

1 現状と課題

→ 客観的なデータや市民の声などに基づく正確な現状を示し、解決すべき課題を明確にする。 … 必要性

2 解決策

→ 他市の例などの調査や検討を踏まえた具体的な取組を提案し、あわせて期待される効果を可能な限り定量的に示す。 … 有効性

3 経費

→ 取組に必要な経費の見込みとともに、期待される効果との対比により実施に向けた判断材料を示す。 … 費用対効果

【テーマ（例）】 ※テーマの選定方法を限定するものではない

前回の市民文教委員会のテーマを例として、今回の考え方に基づいて設定するならば、以下のような案が想定される。

前回の市民文教委員会のテーマ

- ・ これからの自治会活動とは？
 - 自治会活動にはどんな課題があるか、これからの自治会活動はどうあるべきかについて意見交換

同様のテーマで今回の考え方に基づいて設定する場合の案

- ・ 自治会活動が続いていくためには（継続性に絞る）
 - 自治会活動が必要か不要かを確認し、必要であれば、どうしたら継続していけるかについて意見交換
- ・ 自治会活動の担い手を見つける（担い手に絞る）
 - 自治会の役員のなり手不足の原因は何か、どうすれば担い手が現れるか、担い手になるかについて意見交換